

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 11 月 7 日 (2019.11.7)

【公開番号】特開 2018-190913 (P2018-190913A)

【公開日】平成 30 年 11 月 29 日 (2018.11.29)

【年通号数】公開・登録公報 2018-046

【出願番号】特願 2017-94550 (P2017-94550)

【国際特許分類】

H 0 1 G 9/26 (2006.01)

H 0 1 G 2/06 (2006.01)

H 0 1 G 4/228 (2006.01)

H 0 1 G 9/28 (2006.01)

H 0 1 G 9/12 (2006.01)

【 F I 】

H 0 1 G 9/00 5 2 1

H 0 1 G 1/035 A

H 0 1 G 1/14 A

H 0 1 G 9/00 5 3 1

H 0 1 G 9/12 A

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 9 月 26 日 (2019.9.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 5 】

電極間パターン 3 4 は、図 5 および図 6 に示すように、一方の貫通孔 3 1 の周辺領域からそれと隣接する貫通孔 3 1 の周辺領域に亘って形成されている。本実施形態においては、長円形状の電極間パターン 3 4 L が第 1 キャパシタ 1 0 A の負極 1 2 A N と第 2 キャパシタ 1 0 B の正極 1 2 B P とを包囲するとともに、同じく長円形状の電極間パターン 3 4 R が第 2 キャパシタ 1 0 B の負極 1 2 B N と第 3 キャパシタ 1 0 C の正極 1 2 C P とを包囲している。なお電極間パターン 3 4 L および電極間パターン 3 4 R は同様の構成であるため、電極間パターン 3 4 R の説明および図示は省略する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 0 】

外部接続用パターンは、キャパシタ 1 0 における両端の電極 1 2 (第 1 キャパシタ 1 0 A の正極 1 2 A P および第 3 キャパシタ 1 0 C の負極 1 2 C N) を個別に包囲し、コネクタ 4 0 の図示しない外部電源出力用端子の近傍まで延出して形成されている。外部接続用パターンは電極 1 2 を一つのみ包囲する以外は電極間パターン 3 4 と同様の構成であるため、説明および図示を省略する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

なおコネクタ40は上述の外部電源出力用端子の他、信号用端子を備えている。また、回路基板30にはさらに、キャパシタ10の温度を検知するためのサーミスタ42が実装されている。コネクタ40は回路基板30の前端中央近傍（図1において二点鎖線Cで示す位置）に配されている。サーミスタ42は第2キャパシタ10Bの正極12BPと負極12BNとの間に配され、検知された第2キャパシタ10Bの温度を以てキャパシタ10の温度とみなしている。信号用パターン36は、これらの実装部品とバランス回路41との間にも形成されているが、図示は省略する。

【手続補正4】

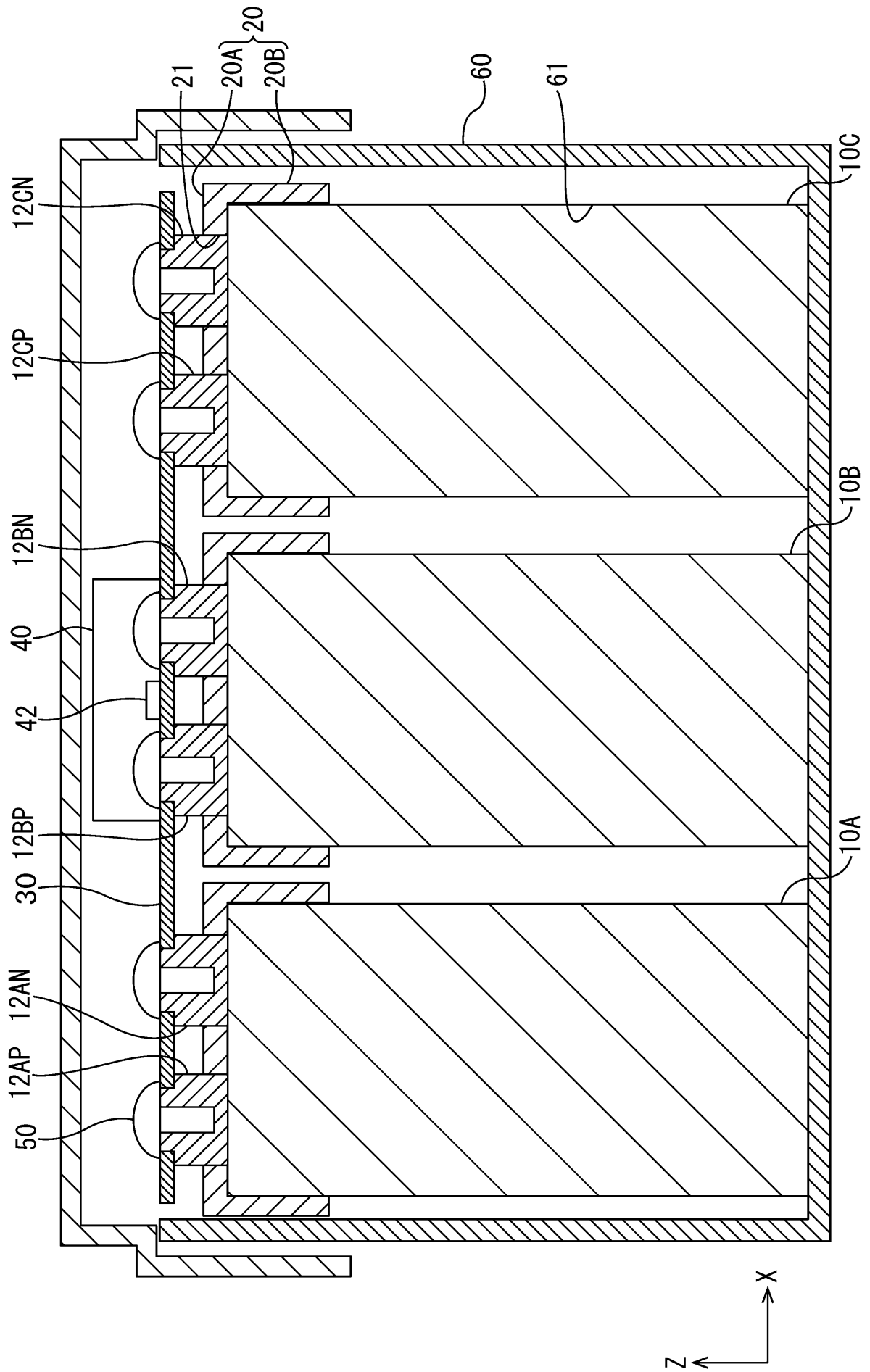
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2】



【手続補正 5】

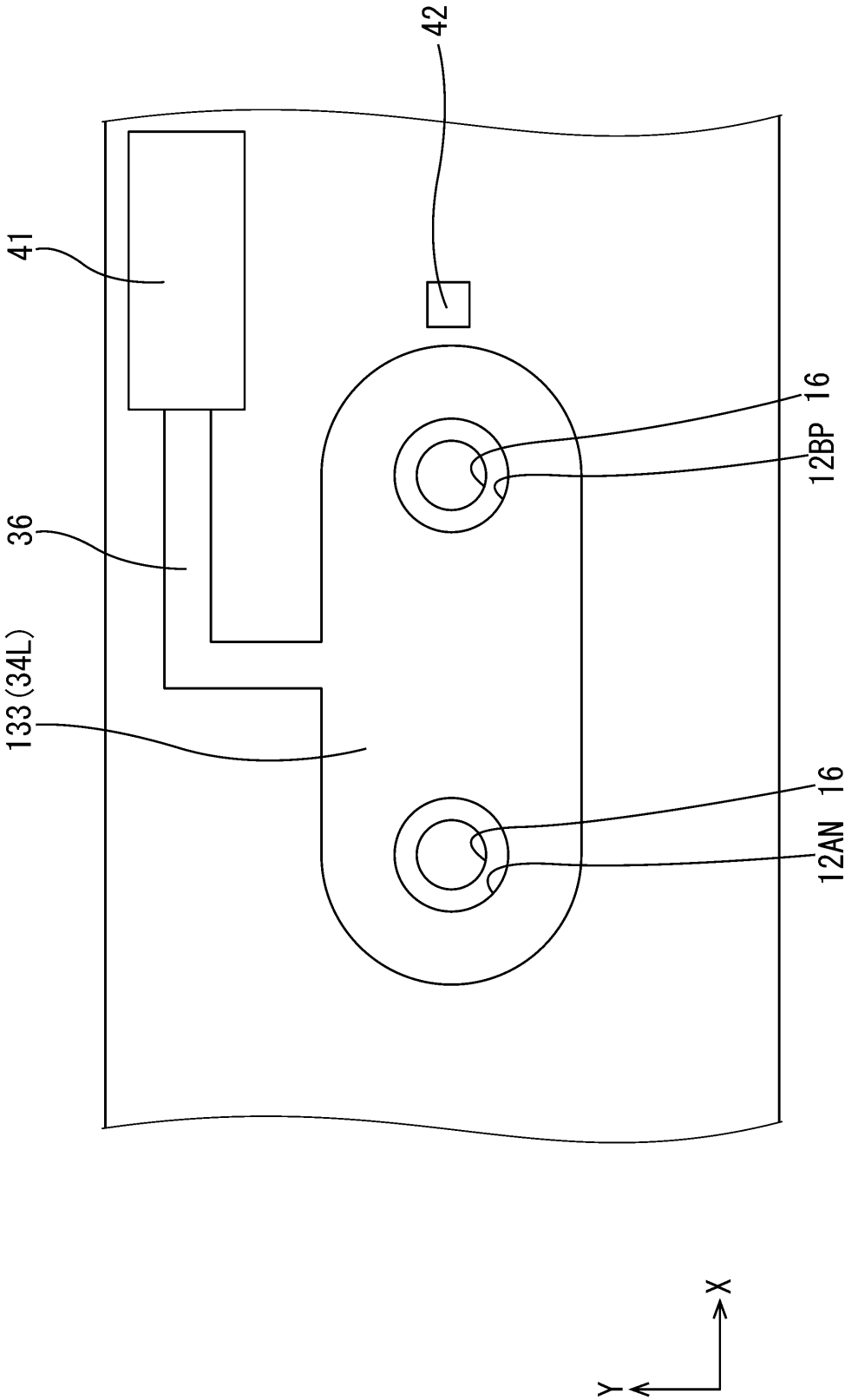
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 5】



【手続補正 6】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 7】

